



みよし

令和4年 2月21日

文責 久保島 修

「心を鬼にする」ということ ～ 相手のために思って ～

来週から3月、春の到来が待ち遠しいこの頃です。しかし、オミクロン株の感染拡大による「新型コロナウイルス感染拡大防止への臨時特別協力要請」が適用され、今後も子供たちの安全・安心のため、これまで以上の緊張感をもって教育活動に臨みたいと思います。少し前の話とはなりますが、今回は「節分」について話をさせていただきます。



2月4日は「立春」でした。暦の上では、春ということになります。前日の2月3日は「季節を分ける」という意味で「節分」です。この節分の日に、豆まきをされる御家庭も多かったのではないのでしょうか。もともとは、季節の変わり目には邪気（鬼）が生じると意味で、鬼をはらうために豆まきが始まり、「豆（穀物）には生命力と魔除けの力が備わっていて、鬼に豆をぶつけて邪気を追い払い、1年の無病 息災を願う」のだそうです。季節の変わり目には、体調がすぐれないという事もあるので、こうした行事が行われてきたのかもしれない。「福はうち、鬼は外」が一般的ですが、「福はうち、鬼はうち」とする地方もあると聞きました。鬼を祭っているからだそうです。よい鬼の話も実は、民話のなかにはたくさんあります。（私は民話ではないのですが『泣いた赤鬼』の青鬼が永遠のヒーローです）ちなみに我が家の節分のかけ声は「鬼は外！福はうち！鬼の眼（まなこ）を叩きつぶせ！」です。

（御先祖様は過去にどれだけ鬼を恨んでいたことか・・・でも、私は青鬼がマイヒーローなので…）ところで、以前テレビを観ていたら、「心を鬼にする」という話をしていました。ある体操クラブの話でしたが、子供たちの才能を開花させるには、「心を鬼にして」指導するというのです。「誉めて育てる」、「子供の気持ちにそって話を聞く」等、どちらかという「心を鬼にして」厳しく接することは少なくなっただよと感じます。クラブのコーチの厳しい指導に涙を流す子もいましたが、技ができたときの達成感を「厳しいけど、とてもうれしい」と表現していました。

「心を鬼にする」とは「他人に対して、可哀想だと思いながらも相手のために思い、厳しい態度をとる」という意味です。1つ注意してほしいことは、「可哀想だと思いながらも」という部分です。平気で辛く当たっているのではなく、「相手のために思って」心を痛めながら厳しくしている様子です。そうでなければ「心を鬼にする」ではなく、単なる「鬼」です。



今年度も残りわずかとなりました。義務教育の9年間のうち、6年間の小学校での育ちは大変重要です。ですから、学校では毅然とした態度で指導しなければならないことが多々あります。その子にあった方法で「誉めて励まし」「話をよく聞いて」たまには「心を鬼にして」指導を行ってまいります。これまでの児童一人一人の育ちを振り返り、あと1か月でベストな状態で進学・進級できるよう、教職員一同がんばります。御家庭でも御協力をよろしくお願いいたします。

*雪の日の情景 ～子供たちは(^_^)v 私は…～

久しぶり（1年ぶり？）に本格的な雪が降りました。積雪や着雪が心配でしたが、交通機関等には大きな乱れもなく一安心しました。（甲府から通勤している私にとっては「雪」という言葉を聞くと心配でゆっくりと休むことができません(;>)）また、大人にとっては「また雪かき(;>)」「通勤が・・・」等など、とかくマイナスのイメージを抱いてしまう雪なのですが、子供たちにとっては、待ちに待った大切な雪となりました。そんな雪に込めた子供たちの想いを、少しだけ紹介します。

1年生：ゆきあそびをしました。大きなゆき玉をつくりました。一人だったらびくともしませんでした。大きなゆき玉からすべりだいをつくりました。きゅうでした。せいこうしました。うれしかったです。（かのんさん）

2年生：「雪のけっしょう」

早く雪がふるといいなとおもいました。そして雪のけっしょうが見たいです。

あと、雪だるまもつくりたいです。いっぱいつもってほしいです。（しょうたさん）



☆にこにこ笑顔いっぱい遊んでいる子供たちに忘れていた感性を思い出させてもらいました(^_^)。

☆お互いのよさを知り、認め合うこと☆

～校長雑感～

『うさぎとかめ』のお話の続きにまつわる話をいくつか紹介します。

一つ目は、競争を終えたうさぎが自分の町に帰ると「かめに負けるなんて恥さらしだ」と言われ町を追い出されてしまいます。しかし、おおかみが町を狙っていることを知り、おおかみをだまして町を危機から救ったうさぎは英雄として迎えられたというお話です。

二つ目は、かめはやれば何でもできるということを勘違いし、絶対に空を飛べると自分に言い聞かせて、わしに高い所に連れて行ってもらって大けがをしたというお話です。

三つ目はうさぎがかめに再挑戦したというお話です。うさぎは今度は油断していないので圧倒的な速さで勝利しました。でもかめはこう言いました。「勝負には負けたけど、前回よりも早くゴールできたんだ。自分に勝ったことがうれしいんだ。」(私はこのお話の続きが好きです) お話の続きはいろいろありますが、楽しいお話になるように想像し、考えたことを書いてみると、楽しさが広がります。想像することは、相手の気持ちを考える力にもつながります。お互いのよさを知り、認め合うことを学びの場で大切に意識していくことで「自分がこういうことをしたら、相手はどう思うだろうか」「こうすれば友達も自分も気持ちよく遊ぶことができるだろうな」と考える心のゆとりが生まれてきます。このような温かい心があると、不愉快な思いをするお友達は一人もいなくなるはずで、友達を大切にしたい楽しい学校生活を創っていきましょう。

これから3月の修了式までそれぞれの学年にとってまとめの時期になります。4月に入学してきた1年生はもうすぐお兄さん、お姉さんとして新1年生を迎えます。また、6年生は、中学校入学を控えて卒業式の準備が本格的に始まります。寒い冬の間、土の中で着々と養分を吸収し、春になると昨年よりも一回りも二回りも大きく立派な花を咲かせる植物たちのように、しっかりと日々の学習に取り組みさらなる飛躍への準備をしていく時期です。少しずつ春がやってくるのを楽しみに、しっかりとまとめの学習を行いましょ。



~~~~~ 学校生活の様子より ~~~~~

* 本の読み聞かせ (図書委員会)

1月26日(水)に感染対策をしっかりと行い、図書委員による「読み聞かせ」が行われました。

寒い日が続くこんな季節は、外で元気に活動することも大切ですが、図書館や教室で本を読むことも「心を温めるため」には大切なことです。今回は、図書委員が教室に行き各学年にあった本を紹介し「読み聞かせ」を行いました。

谷二小の児童たちにもっと多くの本を読んでもらえるように、図書委員の人たちは工夫を凝らし楽しい趣向を交えて、一生懸命に「読み聞かせ」を行いました。

谷二小の児童の皆さんは、きっと沢山の本を読んでくれることと思います。また、引き続き、各御家庭での「家読(うちどく)」への御協力もよろしくお願いいたします。



* 「給食集会」(動画配信)

1月24日から1月30日までの間は「全国学校給食週間」でした。

「給食週間」にちなんで、給食委員会のみなさんによる動画配信による「給食集会」が行われました。コロナ禍での給食準備の仕方や配膳の仕方、「黙食」への取り組みなど、給食における感染予防について給食委員のみなさんが実際に演技を行いわかりやすく説明してくれました。また、食事のマナーや偏食をなくすことの大切さも教えてくれました。

(私は都留市の給食が大好きです! 給食センターのみなさん! おいしい給食をありがとうございます! 給食委員会のみなさんありがとうございました! (^_^)!

* 「第2回児童総会」(Zoomによるオンライン開催)

2月16日(水)に、今年度の児童会活動を総括する、「第2回児童総会」を新型コロナウイルス・オミクロン株の感染拡大防止のためZoomによる「オンライン総会」を行いました。

『夢と希望が輝く学校』を目指し、そのために1「げんき・あいさつ」2「笑顔・仲良し」3「きれい・せいけつ」に重点をおいて1年間取り組んだ児童会活動でしたが、多くの成果が確認されました。ただし、今後も継続していかなければならないことも確認されたので、課題解決に向けて、残りの日々と次年度の継続した取り組みをしてほしいと思います。

